



BUSINESS REPORT

第49期中間事業報告書

2022年7月1日～2022年12月31日



Business Report 2023
第49期中間事業報告書

経営理念

Management Philosophy

私達は、チェーンレストラン事業を通じ、顧客・株主・従業員・取引先・社会の、精神的・物質的幸福を調和させ、その安定的増進を実現します。

ジョイフル 店員の誓い

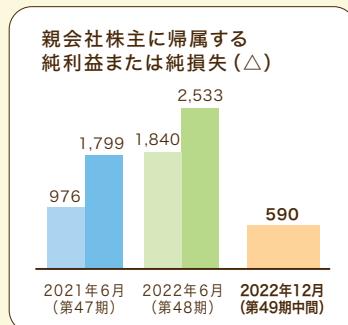
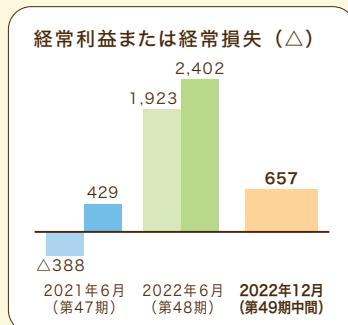
Our Promise

私達は、ジョイフルの旗のもと、信頼される品質の店、低廉な価格の店、どこにでもあって、いつでも開いている店、気軽に快く過ごしていただける店として、永続的・安定的に営業し、皆様に愛される店となります。

連結業績ハイライト

Consolidated Results

■ 中間期 ■ 通期
(単位：百万円)



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、ここに第49期(2023年6月期)の中間事業報告書を作成いたしましたので、ご高覧いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化するなか、社会活動に緩やかな回復の兆しがみられる状況となりましたが、エネルギー価格や原材料価格の高騰、為替相場における円安の進行、ウクライナ情勢の長期化や中国における新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

外食業界においても、再び新型コロナウイルス感染症の感染が拡大傾向を示し収束が見通せないなか、エネルギー価格や原材料価格の高騰など、引き続き大変厳しい経営環境が続いております。また、テイクアウトやデリバリー販売といった感染動向に左右されにくいビジネス展開に取り組む企業の増加など、外食業界をとりまく環境が大きく変化しております。

当社グループでも、このような非常事態に対処すべく、当面のコロナ禍において十分な資金調達を実施することで中長期的な財務基盤の安定化を図ることを目的として、コミットメントライン契約の再締結を実行しました。

さらに今後の中長期的な成長戦略を実現するため、既存のイートイン事業はもちろんのこと、テイクアウトやデリバリー販売、量販店や通販サイトを通じた販売を強化するなど、子会社を含めたグループ全体のパフォーマンス向上に取り組んでまいりました。

商品施策では、既存商品のブラッシュアップを継続して提供品質の向上を進めると同時に、試験販売を繰り返してお客様の消費動向を慎重に分析した上で、グランドメニューの改定を1回、フェアとして「ほかほか満点フェア」を行いました。

グランドメニューの改定では、「大人のお子様ランチ」や「カラダよこぶ12品目のバランスサラダ」など、新メニューが23品登場しました。特に、デザートは計15商品のうち10商品を新商品とし、大きく刷新しました。また、エネルギー価格や原材料価格の高騰、為替相場における円安の進行に伴うコスト上昇に対応するため、販売価格の見直しを行いました。

さらに、コラボ商品第5弾として「ヒカル考案冗談抜きで旨いビーフシチュードリア」を販売しております。

営業施策では、重点的な取り組みとして、料理のクオリティー維持・向上を目的に作業チェックシートを見直してひとつひとつの作業の徹底を行い、良い品質で、見た目にもきれいで、鮮度の良いおいしい料理を安定的に提供できるように努めてまいりました。

また、販促促進として、グランドメニューの改定に先立ち、メディアPR発表会および事前応募者から抽選で招待されたお客様参加の試食会を実施し、マスメディアやSNSを通じた、商品のプロモーションに努めてまいりました。さらに、便利でお得なスマートフォン専用無料アプリ「ジョイフル公式アプリ」も更なる充実を行いました。

当第2四半期連結累計期間末における店舗数は、グループ直営からFCへの転換5店舗、グループ直営2店舗及びFC1店舗の退店により659店舗(グループ直営607店舗、FC52店舗)となりました。

当第2四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は28,640百万円(前年同四半期比22.5%増)、営業利益は581百万円(前年同四半期は営業損失1,362百万円)、経常利益は657百万円(前年同四半期比65.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は590百万円(前年同四半期比67.9%減)となりました。

なお第49期の中間配当は、新型コロナウイルス感染症の影響および財務状況を踏まえ慎重に検討させていただいた結果、無配とさせていただいております。株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、可能な限り早期に復配できるよう努めてまいりますので、引き続き当社へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



代表取締役社長

穴見くるみ



※商品イメージ写真（実際に店舗で提供される盛付けとは異なります）

2023年6月期 上期の主な取り組み

ヒカル×ジョイフルコラボ企画の実施

ジョイフルでのお食事を通じてお客様に喜んでいただけるものを提供したいという想いから、カリスマクリエイターヒカルさんとコラボレーションした新商品「ヒカル考案 冗談抜きで旨いハンバーグ」「ヒカル考案 冗談抜きで旨いおかんの唐揚げ定食」「ヒカル考案 冗談抜きで旨いグルメバーガー」「ヒカル考案 冗談抜きで旨い牛焼肉定食」を全国のジョイフルにて販売いたしました。

2022年12月6日には第5弾となる「ヒカル考案 冗談抜きで旨いビーフシチュードリア」の販売を開始し、より

多くのお客様にご好評をいただいております。

皆様からのご支援のおかげをもちまして、いずれの商品も当社としては異例のスピードで販売数を伸ばしており、2022年12月9日にはシリーズ累計販売数が600万食となり、大変好調です。

これからも皆様からの温かいご支援を忘れず、多くのお客様に愛されるような商品を開発するべく、なお一層の努力を重ねてまいります。



社員独立フランチャイズ制度の開始

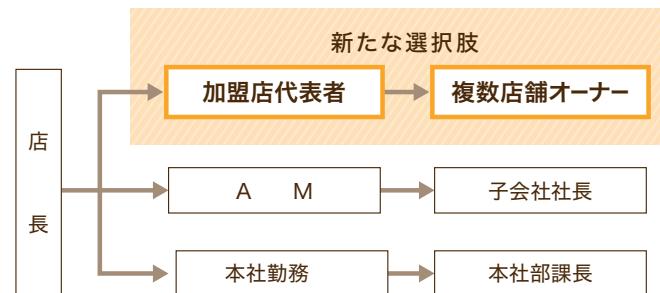
ジョイフルでは勤務する社員の新たな働き方の一つとして、自身が積み重ねた店舗経営ノウハウを活かして、希望地域で加盟店代表者として独立することができる社員独立フランチャイズ制度を2022年8月より開始しました。

社員独立フランチャイズ制度を実施することで、加盟店代表者からロイヤリティが支払われ、本部の安定的な経営が実現できるとともに、加盟店代表者はこれまでの店舗運営経験を活かしつつ、転勤のない希望地域で開業することが可能となっています。また、もともと営業している店舗を使って開業を行うことで、精度の高い事業計画と本部からの全面バックアップのもとに営業に注力することができます。

そのような環境の下で『店舗・本部の収益アップ=加盟店代表者の収入アップ』を達成するという新たな働き方を実現して参ります。

2022年8月より5名（5店舗）が加盟店代表者として独立・開業いたしました。社員独立フランチャイズ制度をジョイフルグループの新たな収益の柱とするべく、今後約7年で当社店舗の約70%のフランチャイズ化を目指して参ります。

■社員の働き方イメージ



フランチャイズシステムとは

フランチャイズとは、フランチャイズに加盟する人（加盟店代表者）がフランチャイズ本部（ジョイフル）から店舗・サービス・商品などを使う権利を得て、店舗の経営・運営を行うものです。

- 加盟店代表者と本部がビジネスパートナーとして一体となり、共同で収益を上げることで、双方に利益がある関係を築きます。
- 加盟店代表者は本部の全面バックアップを受け、収益向上に専念できることで収益の一部をロイヤリティとして本部に支払っていただくビジネスモデルとなります。



※商品イメージ写真（実際に店舗で提供される盛付けとは異なります）

2023年6月期 下期の主な取り組み

キャラクター及び芸能人を使用したコラボ企画の実施

ジョイフルではお食事を通じてお客様に喜んでいただけるものを提供したいという想いから、大分県日田市出身の漫画家、諫山創さんの代表作であるアニメ「進撃の巨人」とのコラボキャンペーンを実施いたしました。

アニメ「進撃の巨人」のキャラクターをイメージしたメニューを提供するとともに各SNSと連携したプレゼントキャンペーンなどのSNSマーケティングを実施することで、新商品などの情報伝達のスピードを向上させるとも

にジョイフルの認知度拡大、顧客ロイヤルティの醸成に取り組んでおります。

また、タレントの秋山竜次さんに「ジョイフル宣伝部長」に就任していただきました。ジョイフルの新たなグランドメニューや外販商品の魅力をさらに多くのお客様に対して訴求できるように、今後も新たな企画にチャレンジしてまいります。



ジョイフル宣伝部長

S DGsへの取り組み

ジョイフルでは、持続可能な社会の実現への取り組みとして、大分市のフードバンク事業者「フードバンク東九州」様へ、従業員が家庭から持ち寄った食材を寄付いたしました。寄付した食材は、食べ物に困っている方や福祉施設に無償で提供されます。その他に、働きやすい職場環境づくりを推進することで、モチベーションの向上、労働生産性の向上、組織の活性化に繋がると考え、2020年から健康経営実施における目標を定め、「健康増進、生活習慣病予防対策」「メンタルヘルス対策」などを進めた結果、2021年3月より毎年「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に認定されております。

また、2018年に認定された「くるみん」は、子育てサポート企業としての実績が認められ、2023年も引き続き認定交付されました。継続して実施しているプラスチック製ストローの提供廃止、バイオマス材料を配合したテイクアウト用袋の導入などのサービスや事業活動を通じて、今後も環境保全と社会の発展のため、取り組みを進めてまいります。



子ども食堂事業への取り組み

ジョイフルでは社会貢献活動の一環として子ども食堂事業への協力を行っております。

子ども達に提供される食事に対して食材の提供を行うことによりフードロスの削減に努めるとともに、アフターコロナの時代を迎え、人と人との関わりが希薄になっている現在の社会において未来を担う子ども達に対して、地域の方々との共食の機会を提供することにより、豊かな人格育成、新たな地域コミュニティの構築などに取り組んでおります。



新店オープン

- 〈国内〉 ■ ジョイフル中之島店（宅配専門）（2023年2月1日）
- 〈海外〉 ■ 台湾ジョイフル 台南新仁店（2023年3月24日）

※（ ）内の日付はオープン日です。

連結財務諸表

Point

資産の部

当第2四半期連結会計期間末の総資産は28,406百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,177百万円の減少となりました。これは主に、現金及び預金の減少1,602百万円によるものであります。

Point

純資産の部

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は6,281百万円となり、前連結会計年度末に比べ460百万円の増加となりました。これは主に、利益剰余金の増加435百万円によるものであります。

Point

営業利益・経常利益

営業利益は581百万円となりました(1,943百万円の増益)。主な要因は新型コロナウイルス感染症の影響の縮小に伴う売上高の上昇によるものです。経常利益につきましては前期、営業外収益として計上していた助成金収入が減少した結果によるものです。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (2022年6月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産	6,150	5,198
固定資産	23,433	23,208
有形固定資産	18,627	18,510
無形固定資産	424	383
投資その他の資産	4,381	4,314
資産合計	29,584	28,406
負債の部		
流動負債	9,103	8,764
固定負債	14,660	13,360
負債合計	23,763	22,125
純資産の部		
株主資本	5,703	6,139
資本金	100	100
資本剰余金	4,266	4,266
利益剰余金	2,950	3,386
自己株式	△1,613	△1,613
その他の包括利益累計額	51	75
純資産合計	5,820	6,281
負債純資産合計	29,584	28,406

Point

負債の部

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は22,125百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,638百万円の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少1,298百万円によるものであります。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期 連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
売上高	23,379	28,640
売上原価	7,344	9,657
売上総利益	16,034	18,983
販売費及び一般管理費	17,396	18,401
営業利益又は営業損失(△)	△1,362	581
営業外収益合計	3,407	191
営業外費用合計	121	116
経常利益又は経常損失(△)	1,923	657
特別利益	-	-
特別損失	31	18
法人税等	60	58
四半期純利益	1,831	581
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,840	590

※金額は百万円未満を切捨表示しております。

Point

売上高

売上高は28,640百万円(前期比+22.5%)となりました。増収の主な要因は新型コロナウイルス感染症の影響の縮小に伴う売上高の上昇によるものです。

Point

親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益は590百万円となりました。減益の主な要因は売上高の増加に伴い営業利益は増加したものの、営業外収益として計上していた助成金収入が減少した結果によるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期 連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	4,175	669
投資活動による キャッシュ・フロー	△97	△480
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,405	△1,807
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	676	△1,598
現金及び現金同等物の 期首残高	2,611	3,401
現金及び現金同等物の 四半期末残高	3,287	1,802

Point

営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、669百万円となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益639百万円、減価償却費674百万円であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額621百万円でありです。

Point

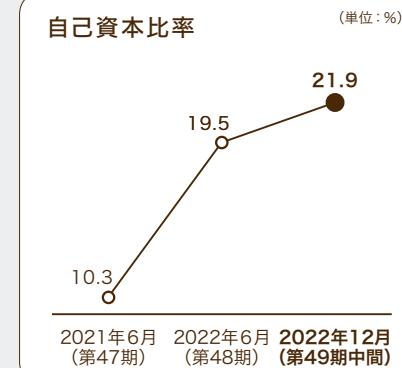
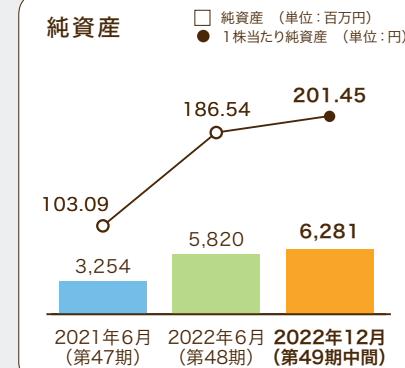
投資活動による キャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、480百万円となりました。収入の主な内訳は、敷金及び保証金の回収による収入30百万円であり、支出の主な内訳は、有形及び無形固定資産の取得による支出511百万円でありです。

Point

財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、1,807百万円となりました。支出の主な内訳は、短期借入金の純増減額200百万円、長期借入金の返済による支出1,438百万円でありです。



株式情報

株式の状況

発行可能株式総数
120,000,000株

発行済株式総数
31,931,900株

株主数
15,594名

株式の所有者別状況

	2021年8月31日現在		2022年8月31日現在		2023年2月28日現在	
	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)
証券会社	8	8,130	7	2,050	9	2,221
外国人	19	17,100	18	13,700	19	13,479
金融機関	5	697,686	5	698,286	5	697,586
その他国内法人	96	16,584,970	94	16,548,710	93	16,549,510
個人・その他	15,080	13,544,732	15,425	13,589,872	15,467	13,616,622
自己名義株式	1	1,079,282	1	1,079,282	1	1,052,482
合計	15,209	31,931,900	15,550	31,931,900	15,594	31,931,900

※基準日時点の株主名簿に基づき記載しております。

株式の所有者別構成比率の推移



株主メモ

事業年度 毎年7月1日から6月30日
定時株主総会 毎年11月
基準日 定時株主総会の議決権/毎年8月31日
 期末配当金/毎年8月31日
 中間配当金/毎年2月末(中間配当を実施する場合)
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) TEL 0120-782-031(フリーダイヤル)
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

公告の方法 電子公告の方法により行います。但し、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL <http://www.joyfull.co.jp/>
上場取引所 福岡証券取引所

◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について
 株主様の口座がある証券会社にお申し出ください。
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行様にお申し出ください。

◎株主総会資料の電子提供制度(書面交付請求)についてのお問い合わせ
 お取引の証券会社または三井住友信託銀行様へお問い合わせ願います。
 専用コールセンター 0120-533-600 受付時間: 9:00 ~ 17:00
 (土・日・祝日および12/31 ~ 1/3を除く)

会社情報・店舗情報

グループ店舗一覧 (2022年12月31日現在)

660 店

うちFC店舗52店舗 ※()内はFC店舗
 ※新業態・台湾含む

九州・沖縄エリア
339 店

※新業態店舗を含む

【ジョイフル 345店】
 福岡 98(3) 大分 53(4)
 佐賀 22 宮崎 36(1)
 長崎 24(23) 鹿児島 53(7)
 熊本 46(4) 沖縄 7(7)

中国エリア
85 店

【ジョイフル 85店】
 鳥取 4 広島 15
 島根 7 山口 36(1)
 岡山 23

中部エリア
57 店

【ジョイフル 57店】
 岐阜 11 愛知 28
 静岡 12 三重 6

北陸エリア
11 店

【ジョイフル 11店】
 富山 6 石川 5

東北エリア
11 店

【ジョイフル 11店】
 宮城 10 福島 1

関東エリア
42 店

【ジョイフル 41店】
 茨城 6 埼玉 11
 栃木 4 千葉 7
 群馬 8 東京 5

【キッチンジロー 1店】
 東京 1

近畿エリア
67 店

【ジョイフル 39店】
 滋賀 6 兵庫 15
 京都 3 奈良 5
 大阪 3 和歌山 7

【フレンドリー 27店】
 京都 3 奈良 2
 大阪 18 和歌山 3
 兵庫 1

【キッチンジロー 1店】
 大阪 1

四国エリア
40 店

【ジョイフル 40店】
 徳島 5 愛媛 17(2)
 香川 13 高知 5

台湾
8 店

会社概要 (2022年12月31日現在)

創業 1965年6月 **資本金** 1億円
創立 1976年5月 **主な事業内容** 「ファミリーレストランジョイフル」のチェーン展開

社名 株式会社ジョイフル
大分本社 大分県大分市三川新町1丁目1番45号
福岡工場・配送センター 福岡県築上郡築上町日奈古186番1号
熊本工場・配送センター 熊本県菊池市架梁尾宇下大迫445番4号
愛知工場 愛知県豊川市御津町佐脇浜三号地1番17号

(連結子会社)
 株式会社ジョイフル北日本/株式会社ジョイフル東海/株式会社ジョイフル関西/株式会社ジョイフル中国/株式会社ジョイフル四国/株式会社ジョイフル北九州/株式会社ジョイフル中九州/株式会社ジョイフル東九州/株式会社ジョイフル西九州/株式会社ジョイフル南九州/株式会社フレンドリー/株式会社キッチンジロー/台湾珍有福餐飲股份有限公司/株式会社ジョイフルサービス/株式会社ジョイナス